

- む ずかしいことも、
- む き合う、
- む くぎ太一。



む

新聞 Vol.17 むくぎ 太一



広島市議会議員

むくぎ 太一



建設委員会にて

2期目に向け、市議会議員としての政策の「5つの柱」を掲げました。

①インフラ整備の推進 ②地域「コミュニティ再生・活性化」③防災・減災 ④子育て環境の整備 ⑤「Q1」「カラーバリアフリー」の推進——です。

道路や公共交通といったインフラ整備に携わる建設委員会の委員長に就任したこともあり、5つの中から、「インフラ整備の推進」について説明します。

まず、インフラとは道路や公共交通のほか、橋や砂防堰堤といった施設、電気・ガス・上下水道などのライフラインを言い、社会生活に欠かせません。災害でライフラインや道路、橋が壊れば物流は止まり、日常生活が困難になります。インフラは都市の「骨格」と言えるでしょう。

かつて、「コンクリートから人へ」とインフラ整備を「悪玉」にしたようなスローガンのもと国政が行われました。広島市でもインフラ整備を後回しにした時代がありました。その結果は言うまでもなく、目も当てられないものです。広島市は「札幌広福」(さっせんひろふく)として、地方政令市の中で福岡市とひとくくりにされていますが、今や、福岡市ははるか先を走っています。かつてインフラ整備を怠ったツケが、今に跳ね返ってきているのです。

そうした現状を打破すべく、松井実市長はインフラ整備を重視し、**(Q2)**

将来、広島市の子供たちが故郷を誇れるものにするには、都市の骨格を整えること、つまり、後回しにしたインフラ整備を進めることが欠かせません。私は、建設委員長として、広島市議会最大党派「自民党・市民クラブ」の一員として、汗をかいて参ります。

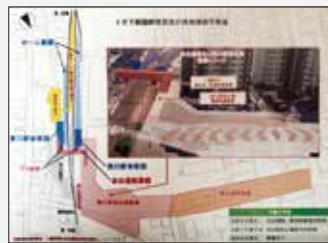
Q1~Q3はP4のQ&Aで解説しています。

私、むくぎ太一は、今年4月の広島市議会議員選挙で多くの負託をいただき、2期目のスタートを切ることができました。1期目以上に、広島市の将来のため、市民益のため精進します。

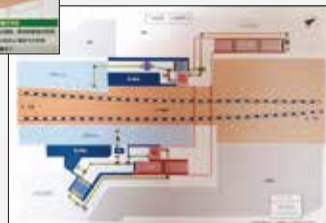
「インフラ整備の重要性」インフラは都市の骨格だ



元新聞記者の視点で地域の課題をピックアップします



JR下祇園駅、西口広場イメージ



JR下祇園駅、計画概要図

広島駅南口再開発や(Q3)アストラムライン延伸、広島高速5号線、公共交通網の再整備など、精力的にインフラ整備を進めています。

Q&A

広島市政に関連する質問にむくぎ太一がお答えします。

Q.1 カラーバリアフリーって何ですか？

色覚特性がある人(いわゆる「色弱者」)が識別しやすい配色や工夫をする取り組みです。例えば、路線図やグラフの配色を目立たせたり、テレビリモコンのボタンに色の名前を記したりします。日常会話でも、「黄緑のペンを取って」などと色で指し示すことは避ける配慮もカラーバリアフリーといえます。

Q.2 広島駅南口広場の整備とは？

広島駅ビルの建て替えをメインとする再整備事業です。路面電車の路線が再編され、駅前通りから新駅ビル2階部分に乗り入れるため、JR各線との乗り換えがスムーズになります。新駅ビルは2025年春開業を目指しています。

Q.3 アストラムラインの延伸について教えてください。

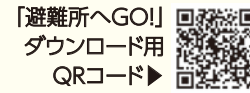
現在の広域公園前駅(安佐南区)から、佐伯区石内方面に向けて西区己斐地区を通り、西広島駅(西区)までの7.1キロ延伸します。アストラムラインの利便性をさらに向上させるには、さらに市内中心部に向けて東へ延伸させ、将来的には「環状線化」することが期待されます。

Q.4 下祇園駅の整備について教えてください。

下祇園駅の東西自由通路と東西新駅舎、西口駅前広場、アクセス道路、ホームの形状変更が主な整備内容となります。自由通路と新駅舎は2024年3月頃に利用開始予定です。引き続き、西口駅前広場は2025年秋頃、アクセス道路は2027年春までに完成を目指しています。

Q.5 避難誘導アプリ「避難所へGO!」とは何ですか？

避難指示等の発令時に、最寄りの開設避難所へのルート案内を行うアプリです。土地勘のない場所でもスムーズに避難所へ行けます。広島市のほか、廿日市市、江田島市、熊野町で利用できます。



Q.6 「学校給食センター」を教えてください

2025年度までに安佐市民病院(南館)跡地に建てる施設です。安佐南区の一部と安佐北区の広島市立学校に配食が可能になり、市立中学校の給食デリバリー方式を解消します。2031年頃には、東部エリアに新センターを整備します。最終的に5つのセンターで計6万9千食の配食を目指します。

むくぎ 太一事務所

祇園事務所 〒731-0138
川内事務所 〒731-0102

広島市安佐南区祇園1-4-5
広島市安佐南区川内5-31-7

TEL (082) 846-5450
FAX (082) 846-5451



【公式 HP】



【Facebook】



【Instagram】



【Twitter】

プロフィール

棕木 太一 (むくぎ たいち)
1975年7月28日生 広島市安佐南区出身
広島市立川内小学校、同市立城南中学校、
広島県立安古市高校、早稲田大学政治経済学部卒業
元読売新聞記者 2019年初当選、23年2期目、
建設委員会委員長 自民党安佐南支部長

■ 公式HPの活動報告から会報誌をダウンロードしてお読みいただけます。この市政報告は、自由民主党・市民クラブの承認を得て発行しています。

5つの柱

私は、政策の「5つの柱」を掲げています。市民生活の向上に欠かせないと思う施策で、一定の成果を出すことを約束します。

- ✔1. インフラ整備の推進
- ✔2. 地域コミュニティ再生・活性化
- ✔3. 防災・減災
- ✔4. 子育て環境の整備
- ✔5. 「カラーバリアフリー」の推進

※✔は今回のテーマとしている政策です。

Q4~Q6はP4のQ&Aで解説しています。

「5つの柱」の内容、へ広島市の現状・展望をお伝えします。

①「インフラ整備の推進」

街づくりにおいて、道路などのインフラの整備は、「骨格」を作るものです。土台（インフラ）が安定していなければ、崇高な都市像も机上の空論となります。

例えば、道路が狭く荒れていたり、交通網が貧弱だったりしては、人やモノはスムーズに流れず、他都市から孤立し衰退します。頻繁な浸水や停電などは、住民の生命・財産を危険にさらします。インフラが安定し



広島高速5号線



新駅ビル2階部分



JR広島駅、南口再整備

ていることが「当たり前」の状態にすることが、インフラ整備の神髄です。広島市を永続的に「誇れる都市」にするため、「インフラ整備の推進」を柱に据えました。

へ広島市の現状・展望

安佐南区は渋滞が課題です。緩和策として、国道183号線で西原1丁目交差点以南の3車線化を進めます。(Q4)JR下祇園駅再整備に合わせ、都市計画道路「西原山本線」の整備も着手します。下祇園駅では、東西の自由通路が2024年3月に利用開始予定です(画像参照)。都市計画道路「長束八木線」の祇園―大町間も延伸を進めます。



工事中のJR下祇園駅

②「地域コミュニティ再生・活性化」

町内会・自治会や子ども会、消防団など地域団体の維持が課題です。役員の高齢化や担い手不足、新型コロナウイルスで活動自粛が続いたことも響いて



町内会・自治会が解散した地域もあります。地域コミュニティは再生と活性化を同時に行う必要があります。広島市は「地域コミュニティ活性化ビジョン」(2022年2月策定)に基づき着手しています。私たち議員は、地域を歩いて実状を把握し、再生・活性化の処方箋を描く責務があります。

へ広島市の現状

私自身、安佐南消防団祇園分団で活動に従事しています。早めの避難を推奨しており、避難所の整備や快適さも求められるため、避難後を見据えた改善策を提供します。

④子育て環境の整備

安佐南区は子育て世代が多く、マンモス校の環境改善が求められます。



中筋児童館

⑤「カラーバリアフリー」の推進

色の見え方(色覚)に特性がある人たちが色を識別しやすいように配慮する「カラーバリアフリー」を普及・推進し、安全・安心を追求します。この色覚特性は遺伝によるもので、男性の20人に1人、女性の500人に1人に顕在化します。私もこの色覚特性があります。また、女性の10人に1人が因子を持っているといわれます(多くは、その女性の男児に色覚特性が顕在化する)。このように、「身近な特性ですが、誤解されたり、存在すら知られていなかったりします。色覚特性を知っていただき、「カラーバリアフリー」を推進することで、誰もが暮らしやすい広島市にできればと考えます。

全国の学校で色覚検査は必須ではありません。「検査が差別を生む」と一部の反対の声を受け、健診の必須項目から外されたのです。私は「検査が差別を生む」とは思いません。まず、色覚特性は恥ずべきものではありません。むしろ、根拠の薄い反対の声が差別を助長し、自分の特性を知る機会を奪うことのほうが「差別的」であると考えます。一部の職業に就業制限がありますが、色の誤認が重大事故などにつながる可能性があり、合理的な制限といえます。むしろ、学齢期に色覚特性を知ることがないまま、そうした職業を志し、「さあこれから」という時に特性を知り、その道を断念しなければならぬほうが残酷でしょう。色覚特性は遺伝的なもののため、「治る」ことはありません。早く特性を知れば別の道を探る機会が増えるわけですから、「検査が差別を生む」という理由は合理的ではないのです。多様性が重視されるこのご時世で、ナンスと云わざるを得ません。

「放課後児童クラブ」の充実も重要です。また、広島市立学校の「食(しょく)環境」を充実させることも必要で、中学校の給食デリバリー方式を解消するため、安佐北区に(Q6)「学校給食センター」を新設し、同区と安佐南区の一部に配食する方針です。食材にもこだわった「食環境」の充実に目指します。

へ広島市の現状

広島市の子供たちには、こうした思いをさせたくはありません。だからこそ、早期の検査の実施を目指すのです。



へ広島市の現状・展望
浸水対策などの設備整備に加え、GO!の作成・運用やハザードマップの作成・更新、消防団による啓発活動といったソフト的な活動も重視します。